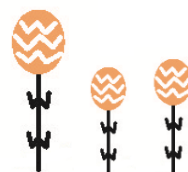


つくしんぼ通信 7月号

中島ゆうし保育園 子育てひろば
稲城市矢野口 256 TEL 042-377-3725 FAX 042-379-5725
http://www.nakajimayuushi.ed.jp/
e-mail kosodate@nakajimayuushi.ed.jp



育児相談のお知らせ

中島ゆうし保育園では、子育てのことでお悩みの方に保育士・看護師・栄養士が育児のアドバイスをさせて頂いております。お気軽にご相談ください。

受付：月曜日～金曜日

時間：9時～16時まで

保育園において頂いての相談はもちろん、電話やメールでもお受けします。
ご来園の際は、事前にお電話でご予約ください。

こちらから、
稲城市の地域カレンダー
(地域の遊びの情報)のHPが
ご覧になれます。



こちらから、
中島ゆうし保育園のHPが
ご覧になれます。



＊つくしの会・すぎなの会＊

◎七夕飾り製作～園児と一緒に～ 4(火)11時頃

◎七夕の会～園児と一緒に～ 7(金)10時頃

◎虫よけスプレー作り 14(金)11時頃



【要予約】

平日 12:30～17:00 事前にご予約ください。(377-3725)

* 園庭開放 *

7月の園庭開放は、

6(木) 13(木) 20(木) 27(木)

【時間】12:00~15:00 ※14:45にはお片づけを始めます。



* 室内開放 *

7月の室内開放は、

4(火) 7(金) 11(火) 14(金) 18(火)

21(金) 25(火) 28(金)

【時間】10:00~13:00

【場所】3階多目的ホール

(当園玄関より、外階段からおあがりください) ※12:30には、お片づけを始めます。



室内開放は、**完全予約制**となっております。予約受付時間：【平日】12:30~17:00

* 室内開放の日には・・・ *

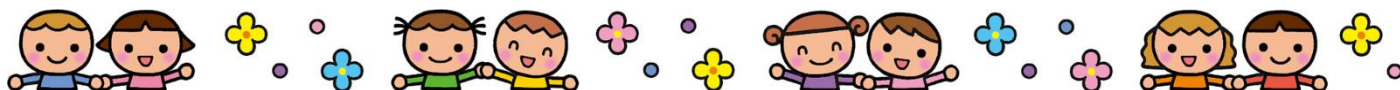
保育士からのミニシアター・保育所体験・ベビーマッサージ・栄養士講座・ルントカフェ等を予定しております。

*日程は、HPや掲示でご確認ください。

* 食育動画 配信 *

調理室よりお届けしています。
HPをご覧ください。

内容が変更する可能性があります。 HPで最新の情報をご確認ください。



食事を通して五感を刺激

生まれながらに持っている「視覚」「味覚」「嗅覚」「聴覚」「触覚」といった5つの感覚は、外からの繰り返しの刺激により発達し、体と脳の成長を促します。

特に食べることは、一度に五感を刺激することができるため、体だけでなく脳の発達にも大きな影響を与えます。毎日の食事で、五感を上手に刺激して、健康な体と脳を育てましょう。

■五感とは

人は、体を健常かつ安全に保つために、感覚器官である「目、耳、鼻、舌、および皮膚」から情報を受け取っています。この情報は、神経系が利用できるシグナルに変換され、脳はこのシグナルを「見た目（視覚）、味（味覚）、臭い（嗅覚）、音（聴覚）および感触（触覚）」として解釈します。子どもは、この五感を統合して「心地よい（安全・安心）」と覚えていくため、食事においても「五感」を意識することが大切です。



★味覚・味わう

人は、本能で母乳の持つ甘味は受け入れることができますが、それ以外の酸味や苦味などは危険なものとして避けようとしています。子どもは、繰り返して食べる体験を通して、安全に食べられることを学び、味わうことができるようになります。毎日の食事でいろいろな食材に挑戦しましょう。

★視覚・目で見える

ごはんの「白色」にプラスして2色以上の色を使うと、視覚的に興味を高めることができます。人がおいしさを感じる色は、暖色系の「オレンジ・赤・黄色」。そこに補色として寒色系の「緑色」を足すとさらに料理のおいしさを演出できます。また、視覚的な刺激として、好きなキャラクターのお皿を使う、苦手な料理を「がんばって食べよう！」と思える盛り付けなども、食べる意欲の向上につながります。見た目の工夫で楽しく食事をしましょう。

■記憶と結びつく食体験

複数の感覚を使って経験した食事は、子どもたちの記憶に残り、次に子どもたちが食べ物を選択する手がかりとなります。食事は「楽しいもの」として記憶することが何よりも大切。五感をフル稼働させた結果、「食べない」ということがあるかもしれませんが、今は練習の時！とおおらかな気持ちで見守り、無理強いせず、楽しい食体験を積み重ねることを心がけましょう。

7月25日は「世界溺水防止デー」

令和3年4月の国連総会での採択により毎年7月25日は「世界溺水防止デー」と宣言されています。世界では、毎年、推定23万6千人が溺れており、溺死は1歳から24歳までの子どもと若者の死因の上位10位以内に入っています。

日本では、厚生労働省「人口動態調査」によると0~1歳では浴槽での溺死、より活動的になる5歳以上では、自然水域での溺死が最も多く発生しています。

〈溺水防止の考え方〉

- ◇ 子どもだけで水に近づかない、近づかせない工夫を
- ◇ 子どもが水に接する場合、大人は目を離さず手の届く範囲で見守りを
- ◇ 水に関する危険と対処法を学習し、事前の準備を



子どもは声や音を出さず静かに溺れることもあります。少しの時間、少しの水量と油断せず、子どもの見守りと合わせて溺水事故が起こらない環境づくりを行いましょう!

○子どもの水の事故を防止するためのポイント○

浴室 子どもが浴室で溺水し死亡する事故が多発!!

- ・ 大人が洗髪する際には、子どもを浴槽から出す。
- ・ 子どもは大人の後に入浴し、先に浴室から出す。
- ・ 子どもだけで入浴させない。
- ・ 浴槽、洗濯機、洗面器、バケツに水をためたままにしない。



海・川 ライフセーバーや監視員等がいる海水浴場の遊泳エリア内で遊ぶ。

- ・ 川の流は一見穏やかそうに見えても、流れが一定ではないため、穏やかそうな流れで事故は起きている。
- ・ ライフジャケットを使用。
- ・ 大人は子どもから目を離さず手の届く範囲で見守る。

プール 禁止事項などが定められていたら必ず守る。

- ・ 排水口には近づかない。
- ・ 水上設置遊具を利用する際は、係員の指示に従い、適切な遊び方・注意事項・禁止事項を守る。



近年では水遊びの際にライフジャケットを着用させる方が増えています。子どもにあったライフジャケットを選び、正しい使い方をして子どもの命を守りましょう。

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/

